

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりの個性の伸長を図る教育活動により、将来社会に貢献できる能力と豊かな人間性を持つ人材を育成し、地域に信頼される学校をめざす。

1. 生徒一人ひとりが、自分の持つ能力を十分に発揮できるよう、学習指導、生徒指導、キャリア教育を推進する。
2. 守るべき規範と果たすべき役割を自覚し、社会に貢献するという志を持つ生徒を育成する。
3. 中学校との連携、保護者や地域との連携を推進し、地域での存在価値と信頼感を高めていく。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 「わかる授業」「参加する授業」をめざした授業の質の向上に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる。
 - ア 生徒による授業評価や教員相互の授業見学・研究授業等を充実させ、授業内容・指導法の改善を図るとともに授業力の向上に取り組む。
 - イ パソコン、プロジェクター、タブレット型PC、書画カメラ等のICTを活用した授業づくりを推進し、自ら学ぶ生徒を育てる。
 - ウ 基礎学力の定着度を測定し、各教科で学習内容の精選、検討を行う。全教科において基礎的事項の確実な定着を図る。
 - エ アクティブラーニングを取り入れ、生徒の主体的な授業参加と活動量を増やし、学びを深める。
 - ※ ICTを活用した授業(平成27年度約2050授業時間/年)を、平成29年度には年間2500授業時間以上にし、以降それを継続する。
 - ※ 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(平成27年度75.4%)を上昇させ、平成30年度には80%以上にする。
 - ※ 学校教育自己診断における生徒の授業満足度(平成27年度59.4%)を、平成30年度には70%以上にする。

- (2) 一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する。
 - ア 習熟度別少人数展開授業の充実を図る。
 - イ 学力定着のための補習や発展的学習を進める講習を計画的に実施する。
 - ※ 原級留置生徒を減少させる。

2 豊かな人間性をはぐくむ生徒指導の充実

- (1) すべての教育活動を通じて、規範意識、自らを律し他人を思いやる心を育てる。
 - ア 基本的生活習慣の確立を図るため、欠席、遅刻についての指導を強化するとともに挨拶する態度を確実に身に付けさせる。
 - イ 制服を正しく着用する生徒を育てる。
 - ウ 授業規律の確立を図る。
 - エ 総合的な学習の時間、LHRを計画的に実施し、規範意識の育成、人権尊重の教育、情報リテラシーの育成、国際理解教育をすすめる、不和や対立を乗り越える豊かな人間関係をつくる力を育成する。
 - ※ 欠席・遅刻について前年度比8%の減少を図る。
- (2) 生徒の自主的活動を支援し、可能性を最大限に伸ばす教育を実践して、自己肯定感を育てる。
 - ア リーダー研修を推進し、体育祭・文化祭等の学校行事の充実を図る。
 - イ 部活動の活性化・充実を図り、加入率を高める。
 - ※ 部活動加入率(平成27年度34%)を増加させ、平成30年度末には50%以上をめざす。
- (3) 生徒理解と中退防止、教育相談の取組みをさらに組織的に発展させるとともに、個々の生徒への支援体制を一層充実させる。
 - ア 家庭連携、中高連携をさらに進め、課題の大きな生徒の指導、支援の方針を担当会、学年会、保健部会、教育相談委員会、中退防止連絡会などで組織的に検討し、指導の充実を図る。
 - イ 長期欠席者等への相談体制の充実を図る。
 - ウ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実を図る。
 - ※ 学力保障等の取組みと併せて中途退学者を減少させ、平成29年度末には在籍の1%以下にし、以降それを継続する。
- (4) 保護者や地域との連携を図り、社会に貢献するという志をはぐくむ。
 - ア 地域の行事等に協力するとともに、清掃活動を活性化する。
 - イ PTA活動を推進し、家庭との協力体制をさらに充実させる。学校行事への保護者、地域からの参加を促進する。

3 「やる気」を起こさせるキャリア教育のさらなる充実

- (1) キャリア教育のさらなる充実を図り、主体的に進路を決定する生徒を育てる。
 - ア 進路指導部、学年が協力して、総合的な学習の時間、LHRを計画的に実施し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養うキャリア教育を推進する。
 - イ キャリアカウンセリング、就職学習会、模擬面接、応募前職場見学等の指導を個々の適性に応じて実施する。
 - ウ 進路だよりを定期的に発行し、保護者や地域に適切な進路情報を提供する。
 - ※ 学校紹介就職内定率(平成27年度97.8%)を上昇させ、平成30年度末には100%をめざす。

4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化する学校力の向上

- (1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化する。
 - ア 中学校訪問、学校見学会、学校説明会等を計画的、組織的に実施し、地域の信頼感を高める。広報活動を活発に行い、本校教育の素晴らしさを積極的にアピールする
 - イ 学校教育活動全般について、適切な情報発信に努め、保護者等との信頼関係を高める。
- (2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。
 - ア 人材育成に努め、特にミドルリーダーの育成、初任者等教職経験年数の少ない教員の資質向上を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「わかる授業」「参加する授業」の実現に向け、ICTを活用した授業づくりなど、授業改善に努めた結果学校教育自己診断の生徒の授業満足度は(59.4%→64.7%)と上昇し、保護者の授業満足度も少し上昇(45.2%→45.9%)した。一方、生徒の授業アンケートにおける各授業への満足度の平均値は73.8%であり、昨年度(75.4%)を下回り、引き続き、組織的・継続的な授業改善の取組みの推進、教員間の授業参観の充実、授業力向上に向けての校内研修の活発な実施などの生徒の実態に即した授業改善に向けての取組みの充実が必要である。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校全体で、生徒の自己肯定感を育てる教育に取り組んだ結果、「門真西高生であることに誇りをもっている」とした生徒の割合が、わずかながら上昇した(50.8%→51.8%)。更に、一人ひとりの生徒を大切にす教育、面倒見のいい丁寧な教育、積極的に褒め自信を持たせる教育、生徒が主体的に活動できるための支援、教育相談体制の整備、遅刻・服装指導の強化を推進し、生徒に自信と誇りを醸成する教育に努める。また、規範意識(66%→68%)、人権尊重(59%→63%)、学校行事満足度(75%→78%)、指導納得度(52%→56%)についてはいずれも昨年を上回った。一方、「学校へ行くのが楽しい」(72.6%→71.4%)「自分の学級は楽しい」(75.1%→71.8%)と感じる生徒の割合がやや減少しており、各分野におけるさらなる取組みの充実を図る必要がある。 <p>【進路指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 系統的キャリア教育、生徒一人ひとりに応じたきめ細かい指導のさらなる充実の結果、キャリア教育満足度はやや下降した(78.4%→77.3%)。「多様な進路希望の実現」に向けて、今年度の取組みをもとにさらなる充実を図りたい。 <p>【その他】</p> <p>全体の平均値からみて、今年度の肯定的評価は、高い順に保護者(68.6→69.7%)生徒(61.7→62.4%)教員(67.2→58.1%)となり、昨年度と比べ教員・生徒が逆転した。また、肯定的評価ポイントの増減は、増ポイントの多い順に保護者(+1.1)生徒(+0.7)教員(-9.1)となっており、今年度の取り組み状況を教員は「良し」と評価していない結果となった。次年度は、教職員の学校経営への参画意識をさらに高め更なる取組みの充実、改善を進める必要がある。</p>	<p>【第1回：7月4日(月)開催】</p> <p><平成28年度学校経営計画について></p> <ul style="list-style-type: none"> 門西カップを拡大し、中学校に部活動のアピールをもっとしてほしい。地域の学校にアピールするのは一つの手段ではないか。文化部の交流にも着手してほしい。 学校だより等広報活動は学校を活性化すると思うのでぜひ広めてほしい。 門真市として門真西高との共催の企画がまだなく、今後発表等する機会を増やしたいので協力願いたい。 <p>【第2回：11月25日(金)開催】</p> <p><平成28年度学校経営計画進捗状況について></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート満足度が高く、教職員の取組み姿勢が素晴らしい。生徒指導と教科指導が一体となって取り組まれており、効果的な指導ができています。 開発的生徒指導が実践できている。「問題行動があったら対応する」ではなく、「学校全体を魅力的にすることで問題行動を減らしていく」という取組みが実践できていると感じる。授業もしっかり取り組まれている印象を受ける。 小学校や中学校と緊密な関係を構築したい。また、地域住民とさらなる連携を深め、開かれた学校づくりをPTAとしても取り組みたい。 12月に門真市文化会館ルミエールホールで実施する「青少年の主張」において、門真西高生と取り組めることに感謝している。 数多くの卒業生が体育祭を見に来ており、生徒が学校に対して好意を抱いているのが伝わる。「さくら祭り」に関しては、一般来校者が260名程度と学校イベントの規模を超えているように思える。今後も卒業生や地域と良好な関係を築いてほしい。 <p>【第3回：2月13日(月)開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校作りへの取組みがすばらしい。リーダー研修の映像から、学校の各取組みが生徒の活性化につながっていることを感じる。 地域を巻き込んで様々なことに取り組んでいることがうかがえる。学校行事への参加者が、想像以上に多くの参加者がいて嬉しく思う。 様々な取組みを通し、生徒の「やる気」を出させる工夫を感じ取ることができる。 「4C：コミュニケーション・コラボレーション・コンビネーション・コーポレーション」が機能していると感じる。 生徒アンケートの「担任以外の先生にも相談できる先生がいる」の項目が5割程度と低く感じる。教員複数体制で生徒を見ていくことの必要性を感じる。 保護者の肯定的な意見が目立つ。特に保護者アンケート「学校行事に参加したことがある」で8割を超えていることは、保護者と連携を取ろうとする学校の取組みがうかがえる。 SNSの指導は大切である。中学校でも最近LINEのやり取りで喧嘩に発展した事象があった。SNS指導等については、各学校と情報共有しながら指導していきたい。 地域との連携に関して、地域の学校への印象は自転車マナーで決まることが多い。交通マナーの指導に注力されることが望ましいと感じる。 来年度の学校経営計画に「安心安全」のワードが追加されたことを評価する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「わかる授業」 「参加する授業」をめざした授業の質の向上に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる ア、公開授業、授業アンケート、教員研修等を活用した授業改善の推進と授業力の向上 イ、ICTを活用した授業づくりの推進 (2)一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する ア、習熟度別少人数展開授業の充実 イ、個に応じた学習指導の実践</p>	<p>(1) ア・各授業の初めにその授業の目標を提示するとともに、授業の終わりに振り返りを行う。 ・初任者等の研究授業、教員相互の授業見学等をさらに活発に実施する。教員相互の授業見学では、強化月間を設定し、授業の質の向上について意見交換を行う。 ・授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ、授業アンケート結果を各教員及び教科で効果的に活用し、授業改善を推進する。 ・対話型、発表型の授業を行うなど、アクティブラーニングを取り入れた授業改善に向けて実践研究を行う。また、そのための教員研修を充実し、授業力向上の取組みの活性化を図る。 ・全教科において基礎的事項の確実な定着を図るために、生徒の基礎学力の定着度を測定し、各教科で学習内容の精選、検討を行う。また、基礎学力の定着度のよりよい測定方法についても検討する。 イ・ICTを活用した授業づくりを組織的に学校全体で推進し、自ら学ぶ生徒を育てる。</p> <p>(2) ア・生徒一人ひとりの学力をより伸ばすために、各学年、教科で、習熟度別少人数展開授業の充実に取り組む。 イ・学力定着のための補習や発展的学習を進める講習を各学年、教科、教務部、進路指導部が計画的に実施する。各種検定試験に向けた講習を実施し、講習参加者を増加させる。</p>	<p>(1) ア・授業観察時の授業目標提示 100% ・初任者の公開研究授業を一人年間1回以上実施できたか。 ・全教員による授業見学月間を年間2回実施できたか。 ・アクティブラーニングに関する研修が実施できたか。 ・基礎学力の定着度測定方法に広がり、深まりがあったか。 イ・ICTを活用した授業年間2200時間以上。 アイ・2学期の興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度77%以上(H27:75.4%)。 ・学校教育自己診断における生徒の授業満足度62%以上(H27:59.4%)。</p> <p>(2) アイ・単位不認定数の減少。(H26:410科目980単位→H27:269科目661単位) ・原級留置生徒の減少。(H27:2.1%)。 イ・補習講習参加者の増加(H27, 1、2年生放課後講習計100数名、各種検定〈漢字・数学・英語・ワープロ〉H27 受験者149名)</p>	<p>(1) ア・授業観察時の授業目標提示は、約80%にとどまっておらず、今後も取り組む必要がある。(△) ・初任者の公開研究授(研究協議含む)は11/14、15、17に実施。各教科の中や教科を超えた指導助言をもらうことができており、見学した経験豊富な教員にとっても新たな発見などがあり刺激になっている。(○) ・授業見学月間を第1回、5/27～6/30、第2回、10/24～11/25に実施。授業見学期間終了後、各教科で話し合っており、その結果を全教科分まとめ、職員会議に提出し、全教員で共有した。(○) ・アクティブラーニングに関する研修を外部講師も招き、「アクティブラーニングワークショップと理論」というテーマで10/12に実施。アクティブラーニングのワークショップを行ったあと、学習指導要領と21世紀型スキルならびにICT活用との関係について受講。参加者には新しい発見があり非常に盛り上がった。(○) ・各教科の中では授業目標設定と振り返りの大切さを重視するとともに、授業において小テストや確認テストを行い、基礎学力の定着を図った。(○) イ・情報科を除く教科でのICTを活用した授業は2学期末までで2493時間であり、目標を大きく上回っている。次年度は教科内での教材の共有化を図るとともに、タブレット型端末のより効果的な活用をめざす。(◎) ・2学期の興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度は74%にとどまった。(△) ・学校教育自己診断における生徒の授業満足度は64.7%で昨年の59.4%を上回った。(◎)</p> <p>(2)ア 国：国語Cの授業において少人数展開をし、基礎的な書く力を高めるために作文指導の頻度を例年より多く設けた。(○) 数：個に焦点をあてた授業形式を心がけ、演習の際の机間指導をきめ細やかに行った。また、小テスト、オリジナルテキスト等を活用し、より知識を深める指導を行った。(○) 英：机間指導をまめに行い、苦手意識のある生徒への声かけを積極的に行い、少人数展開を活かして、生徒の発言、発表の機会を多く設けた。(○) アイ・2学期末の成績不振者数(705科目1,062単位)、原級留置生徒数は減少の見込み。(○) イ・放課後補習・講習、考查前補習、夏期・冬期講習、入試対策講習、漢検・数検・英検・ワープロ検定前講習を実施し、確かな学力の育成、進路実現に成果を上げた。(漢字検定7月11名受験、2級1名、4級1名合格。2月に38名受験。数学検定7名受験、2級1次1名、準2級1次4名合格。英語検定25名受験、準2級1名、3級2名合格。ワープロ検定7月45名受験、2級3名、準2級17名、3級14名合格。2月に43名受験。(それぞれの合格者数は12月末現在)2学期から開始した1、2年生の放課後講習には約280名の生徒が受講した。)(○)</p>

<p>2 豊かな人間性をはぐくむ生徒指導の充実</p>	<p>(1)すべての教育活動を通じて、規範意識、自らを律し他人を思いやる心を育てる ア、欠席、遅刻指導の強化と挨拶の奨励 イ、正しい制服の着用指導の充実 ウ、授業規律の確立 エ、いじめの防止、人権教育・国際理解教育のさらなる充実</p> <p>(2)生徒の自主的活動を支援し、可能性を最大限に伸ばす教育を実践して、自己肯定感を育てる ア、リーダー研修の推進と学校行事の充実 イ、部活動の活性化</p> <p>(3)生徒理解と中退防止、教育相談の取組みをさらに組織的に発展させるとともに、個々の生徒への支援体制を一層充実させる。 ア、教育相談の充実と中退防止、長期欠席者の減少 イ、課題を抱える生徒の組織的指導</p> <p>(4)保護者や地域との連携を図り、社会に貢献するという志をはぐくむ ア、地域行事への参加と地域清掃活動の充実 イ、地域交流活動の充実</p>	<p>(1) ア・欠席、遅刻について、一斉登校指導の実施等、生徒指導部、各学年、担任が協力して、保護者と連携した指導を強化する。 ・学校全体で「おはようあいさつ運動」を行うとともに集会等いろいろな機会を通じて指導する。また、日々の学校生活の中で教員側から挨拶をすることを通して、自然に挨拶をする雰囲気を醸成する。 イ・指導方針を統一し、制服を正しく着用する生徒を育てる。また、着用して快適な制服となるように、制服の見直しを行う。 ウ・「ベル着指導」「起立・礼」「机上の整理・整頓」「授業準備」などの指導方針の統一、教室環境の整備により、授業の集中力を高め、授業規律の確立を図る。 エ・総合的な学習の時間、LHRを計画的に実施し、心のアンケートを行う等、いじめの防止、規範意識の育成、人権尊重の教育、情報リテラシーの育成、国際理解教育を推進する。</p> <p>(2) ア・生徒指導部、西高祭委員会、学年が協力して、リーダー研修を充実させる。 ・生徒自治の精神を養い、体育祭、文化祭、修学旅行等の学校行事を成功させて、自己肯定感を育てる。 ・生徒の自己肯定感を高める取組みのさらなる充実を図る。 イ・部活動の継続を支援するため、顧問を中心にきめ細かい指導を実践する。 ・門真西高カップバスケットボール大会、学校見学会部活動体験等、中学校との交流の機会を広げ、部活動の活性化を図る。</p> <p>(3) ア・教育相談委員会、学年会、中退防止連絡会が情報を共有して、長期欠席者等への早期対応を行うと共に、SC、関係機関との連携を推進し、相談活動を充実させる。 イ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制を確立し、「高校生活支援カード」「個別の教育支援計画」の適切な活用を図る。</p> <p>(4) ア・門真市の行事への協力を行う。 ・学校全体で校外の清掃活動「ピカピカ隊」を活性化させる。 イ・三者(生徒・保護者・教員)交流委員会を活性化し、学校行事への保護者、地域からの参加を促進する。 ・学校保健委員会を活性化させる。</p>	<p>(1) ア・欠席・遅刻の前年度比8%減。 ・「あいさつ運動」を年間5回以上実施できたか。 イ・自ら正しく制服を着用する生徒の増加。スカート丈の短い生徒0名の維持。 ・より快適な制服への見直しができたか。 ウ・授業アンケート「集中して学習に取り組む」に対する肯定的な回答が昨年度を上回ったか。(H27:4点満点中3.18) エ・心のアンケートの実施と実態把握及び適切な対応ができたか。</p> <p>(2) ア・リーダー研修参加者の満足度、肯定的意見90%以上。(H27:90.5%) ・学校教育自己診断(生徒)における学校行事満足度が昨年度(H27:76.4%)を上回ったか。 ・新たな企画など取組みに広がりや深まりがあったか。 イ・部活動加入率前年度比5%増。(H27:34%) ・交流に広がりや深まりがあったか。(H27:中学生約1100名、保護者約200名、引率教員約140名)</p> <p>(3) ア・中途退学者在籍比1.8%以下。(H27:1.97%) ・長期欠席者の減少。(H27:1.97%) ・学校教育自己診断(生徒)における「教育相談」に対する肯定的な回答が昨年度(H27:「親身に対応」63%、「気軽に相談」48.5%)を上回ったか。 イ・各種連携および「高校生活支援カード」「個別の教育支援計画」の作成と適切な支援に広がり、深まりがあったか。</p> <p>(4) ア・参加する生徒層の広がり。 ・参加教職員数の増加。(H27累計90名) イ・学校行事への保護者、地域の参加数の増加。(H27累計1200名) ・年間2回以上の委員会実施と保護者の参加。</p>	<p>(1) ア・生徒指導部と各学年が協力し、遅刻者に対して、放課後の学習指導、翌日の早朝登校を各学年共通の指導として実施。また、遅刻回数のチェックを行い、回数に応じて個別指導を実施。昨年に続いて『遅刻0の日』も毎月1回程度実施したが、遅刻者数3981(約19%増)欠席者数4132(約1.7%増)となった。(2学期末までの前年度比較)(△) ・「あいさつ運動」は年間5回23日間実施し、いろいろな分野で活躍する生徒が参加した。(○) イ・全学年でスカート丈の短い生徒は0になった。体育祭、文化祭で数名はいる生徒がいた。次年度は行事の時も服装指導を徹底する。(○) ・制服検討PTで検討を重ね、より快適な制服へのリニューアルが実現できた。(◎) ウ・全教員が授業規律に関して共通の認識を持ち、指導を徹底することにより、授業規律の確立が図れた。(○) ・授業アンケート「集中して学習に取り組む」に対する肯定的な回答が3.19と昨年度を上回った。(H27:4点満点中3.18)(○) エ・「安全で安心な学校生活を過ごすために」アンケートを6月に実施、「心のアンケート」を12月に実施し、SNSによるいじめの早期発見につながった。総合的な学習の時間、LHRについては、例年の取組みをもとに人権学習、進路学習、国際理解教育を中心に講演会、体験学習等を効果的に実施した。(○)</p> <p>(2) ア・研修参加者の事後アンケートでは肯定的意見が4月実施100%、11月実施100%。1月の研修後にもアンケート実施予定。アンケート結果を検証し、次年度以降の研修に反映させていく。(◎) ・学校教育自己診断(生徒)で学校行事満足度が78.3%で昨年度(H27:76.4%)を上回った。(◎) イ・教育庁「診断支援」事業研修の実施。第1回10月13日(木)、第2回12月22日(木)、第3回1月26日(木)に実施し、次年度の学校経営計画に、「中学校訪問のやり方」「部活動の加入率の上昇」「門西カップ」に関して、新たな視点からの設定目標等を組み込んだ。(◎) ・10月時点での部活動加入率は33%。第2学年始め等の途中からの入部を促進する。(△) ・男女バスケットボール部が「門西カップ」を9月に実施。中学生約1,450名(男女バスケットボール:約1,100名、ラグビー:約200名、サッカー:約100名、ソフトボール:約50名)、保護者約200名、引率教員約150名が参加し、交流が広がった。次年度は文化部にも交流を促す。(◎)</p> <p>(3) ア・教育相談委員会、学年会、中退防止連絡会が情報を共有すると共に、保健室、SCとも連携し、長期欠席者等への早期対応を行った。 ・2学期末の中途退学者数は9名で在籍比1.2%にとどまっている。(○) ・学校教育自己診断(生徒)における「教育相談」に対する肯定的な回答がわずかだが昨年度を上回った。「親身に対応」63%(H27)→63.3%(H28)、「気軽に相談」48.5%(H27)→48.6%(○) イ・「高校生活支援カード」「個別の教育支援計画」は入学前に、支援コーディネーター、教育相談委員長、人権教育推進委員長、養護教諭、学年主任、学年相談係など関係教員が全部を読み、気になる生徒については、必要に応じて各学年で情報共有した。(○)</p> <p>(4) ア・昨年度から参加していた「門真市文化祭」に加え、門真市の「青少年の主張」の司会や、門真警察の交通安全キャンペーンにも参加した。その他に北河内地区福祉協議会が主催の「春を呼ぶみんなのコンサート」や防犯キャンペーンには、生徒会だけでなく文化部も参加した。次年度は更に依頼に応じていきたい。(◎) ・ピカピカ隊を年間に9回実施し、毎回約10名、述べ95名の教職員が参加した。(○) イ・例年通り、4月にさくら祭り、7月にゆかた祭りを実施。体育祭、文化祭等を含め学校行事への保護者、地域の参加数は累計1,767名であった。次年度に向け内容の精査を行うとともに案内を早めに行い、参加を促す。(◎) ・12月に第1回学校保健委員会を「歯と口の健康」をテーマに、保護者参加のもと、学校歯科医による講話と生徒の保健委員によるアンケート結果の考察及び報告が行われた。第2回学校保健委員会は2月に実施予定。次年度は保健所などの地域関係機関と連携しつつ、学校保健委員会を更に活性化させる。(◎)</p>
-----------------------------	--	---	---	--

<p>3 「やる気」を起こさせる キャリア教育のさらなる充実</p>	<p>(1) キャリア教育のさらなる充実を図り、主体的に進路を決定する生徒を育てる ア、系統的なキャリア教育の推進 イ、就職指導の充実 ウ、適切な進路情報の提供</p>	<p>(1) ア・進路指導部、学年が協力して、1年生でニート防止教育講演会、職業観育成ガイダンス、2年生で進路体験学習等、3年生で進路別説明会等を生徒の実態に応じて実施し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養うキャリア教育を推進する。 イ・就職学習会を3年生で実施する。 ・模擬面接を様々な形態(集団・個人、教員・ハローワーク・外部講師等)で実施し、実践力を養う。 ・応募前職場見学を充実させ、受験事業所と生徒の希望とのミスマッチを防ぐ。 ウ・進路だよりを定期的に発行し、保護者や地域に適切な進路情報を提供する。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)におけるキャリア教育満足度の上昇。(H27:78.4%) ・進路未決定者18%以下。(H27:18.4%) ・フリーター希望者9.0%以下。(H27:9.2%) イ・就職学習会の1学期・週1回の実施。 ・模擬面接の一人5回以上の実施。 ・応募前職場見学の一人2か所以上の実施。 ・学校紹介就職希望者の就職内定率98%以上。 ウ・進路だよりの年間5回以上の発行 ・学校教育自己診断(保護者)における「進路についての必要な情報をよく知らせてくれる」に対する肯定的回答が昨年度(H27:65%)を上回ったか。</p>	<p>(1) ア・1年生は12月にニート防止教育講演会、1月に職業観育成ガイダンス、2年生は7月に進路体験学習、3学期に進学・就職講座(全4回)、3年生は4月、7月に進路別説明会を実施した。それぞれ実施後の生徒の感想は概ね良好であったが、学校教育自己診断(生徒)におけるキャリア教育満足度は77.3%にとどまった。(△) ・進路未決定者18.4%(12月末)、フリーター希望者9.4%(12月末)であり、目標を達成できる見込み。年度ごとに講演会やガイダンスの内容を精査し、当該学年の生徒にマッチした指導を行っていきたい。(○) イ・就職学習会を1学期に計10回、8～9月に8回実施し、自己PR文や履歴書の作成、面接対策、求人票の見方、学科試験対策の指導を行った。(○) ・模擬面接を様々な形態(集団・個人、教員・ハローワーク・外部講師等)で1人7回以上実施し、実践力を養った。(◎) ・応募前職場見学を1人2か所以上、延べ132人が全部で78事業所の見学を行い、受験先選定時のミスマッチを防いだ。(○) ・2学期末現在の学校紹介就職希望者の就職内定率は93.3%であり、目標を上回る予定。(○) ウ・進路だよりを、4月、7月、9月、11月に発行。1月末にも発行予定。更に内容を充実させ、教員・保護者だけでなく、本校入学を希望する中学生にもアピールできるようにしていく。(○) ・進路のしおりを保護者懇談時に全学年全員に配付。家庭において、生徒の進路を検討する際の資料になるようにした。(○) ・今年度から1年生も学費説明会受講対象にし、1年生徒1名保護者4名、2年生徒15名保護者15名が参加した。次年度も進学希望者のサポートのために、各種説明会の対象者の拡充につとめていく。(○) ・学校教育自己診断(保護者)における「進路についての必要な情報をよく知らせてくれる」に対する肯定的回答が66.9%であり昨年度を上回った。(◎)</p>
<p>4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化させる 学校力の向上</p>	<p>(1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化させる。 ア、広報活動の充実 イ、効果的で適切な情報発信 (2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。 ア、ミドルリーダーおよび初任者等教職経験年数の少ない教員の育成</p>	<p>(1) ア・広報委員会を中心として、学校全体で、中学校訪問、学校見学会、学校説明会等を計画的、組織的に実施する。 ・学校紹介リーフレット、ポスター、プレゼンテーション資料等を作成する。 イ・学校教育活動全般について、適切な情報発信を行い、保護者等との信頼関係を高める。 (2) ア・府教育センターの研修なども活用し、ミドルリーダーの育成に努める。 ・首席・指導教諭を活用し、日常的なOJTの推進に加え、教職経験年数の少ない教員等の校内研修を計画的、組織的に実施する。特に初任者を含めた2年目から概ね4年目の教員を対象にフレッシュミーティングを実施し育成体制の充実を図る。 ・職員研修を計画的に実施するとともに、必要に応じて伝達研修を実施する。</p>	<p>(1) ア・新たな企画など、広報活動に広がり、深まりがあったか。 ・参加中学校関係者数の増加(H27:校内説明会514名、校外説明会中学生220名、保護者140名) イ・「学校情報の提供の努力をしている」に対する肯定的回答が昨年度(H27:79%)を上回ったか。 (2) ・外部研修等を積極的に活用し、首席、指導教諭等につながる人材を育成できたか。 ・フレッシュミーティングを8回実施。 ・職員研修を計画的に実施できたか。各学期1回の計3回実施。</p>	<p>(1) ア・学校紹介ムービー、学校見学会の案内ポスターのデザインを新たに作成し、有効活用できた。HPもリニューアルしたので、全教員で更新方法などを共通理解し、さらなる広報活動の充実を図る。(○) ・学校説明会の参加状況。中学校関係者数(H28:校内説明会322名、校外説明会中学生217名、保護者112名)(H29.1月現在)(△) イ・門西だより、携帯メールで、行事などの情報を保護者向けに定期的に発信した。(○) ・学校教育自己診断の「学校情報の提供の努力をしている(保護者)」に対する肯定的回答は80.1%で昨年度を上回った。(○) (2) ・学年、分掌等で日常的なOJTの推進に努めることができた。(○) ・初任者を含めた2年目から概ね4年目の教員を対象にフレッシュミーティングを現在6回を実施。3学期に2回実施予定。(○) ・職員研修を、各学期1回(1学期:人権、2学期:授業力向上、3学期:教育相談)の計3回実施。(○)</p>